

子どもたちのこと

八、おしゃまなA子とゆっくり型のO男

大橋 利恵子

男と女の性差は生まれつきではないと言われるが、4歳の男と女の子を見ているとそうかな？と思うことがある。何をさせても比較的じょうずにさっとできるのが女の子で、大変手がかかるのが男の子に多いように思うのは私だけだろうか。無論、家庭での育ちの差であることは言うまでもなく、すべての女の子が成長が早いわけではないのだが、4歳児を担任するたびに、自分の身のまわりのことや新しい遊びへの取りくみ方など、どうしても女の子の方が素早く思う。七月ごろになると、いばった口調で「そんなことしたらいけないんです」などと教えたりする子もいる。それに比べ、男の子は自分のやりたい遊びに熱中することがまず第一で、自分の持物を整

理することとか、衣服をきちんと着ることとか、のりやはさみをちゃんと使うことなど後まわしのようである。今年度の4歳児もまた、しっかりした女の子集団と大変手にかかる男の子の集団とができてきた。その中の代表がA子とO男である。A子は入園当初は不安な表情をみせ、いつも教師のそばにいた。教師が職員室に連絡等で行く時にもちゃんとかくつついてきて、待っていた。そのうち、教師と一緒にやり始めた活動に一人で残っているようになり、やがて、朝から遊びを見つけれられるようになり、教師のそばから離れていった。と思っただけに、園内どこへでもおもしろいことをさがし、みつめてくるようになり、友だちともじょうずに遊ぶように

なった。何か作る時でも、粘土・フィンガーペイント等、新しい遊びの時でも一番にやり、しっかりやり方を理解してできる。給食当番でも、いつも配膳がたりているかを見てまわることや、机上にごみ箱を置くのは教師の役目になっているのだが、A子はそれを見ていて、自分が当番の時はさっさとそれらの仕事をすませてくれる。友だちから「A子先生だ」と言われてにこにこしている。ルール違反をみつけると告げ口がさかんな今日のごろなのに、A子だと告げ口する前に自分で「そんなことをしたらいけないの」と注意している。入園当初のことを思うとまったく信じられない思いなのである。

それだけしっかりしているからいばっていて少々にくらしいかと言うと、決してそんなことはなく遊び方は実にまだかわいい。七月の七夕飾りの時にも、ちょうちんの作り方を覚えると、すぐにその作ったちょうちんをぶらさげて、となりのクラスや園長先生に見せに行っていた。そして園長先生に作ってあげるのだといっは、広告紙で作ったり、大きなちょうちんを作ったり、白い紙

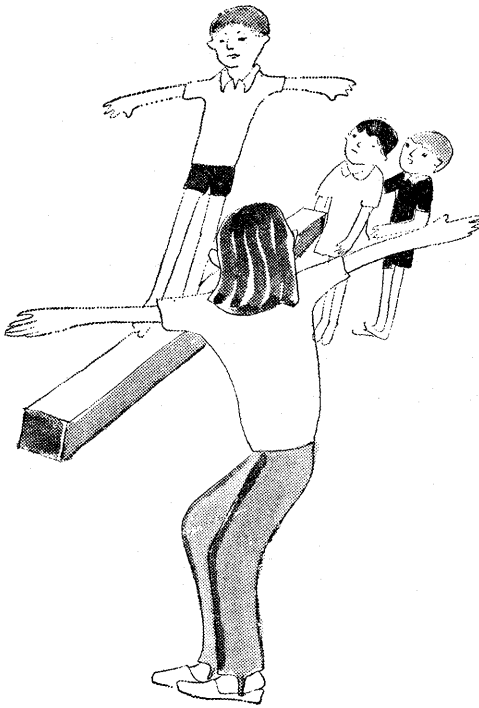
で作ったり、くりかえし四つ五つは作っていた。その大きなちょうちんを毎日ぶらさげては廊下を行ったり来たり、何が楽しいのか三日間はちょうちんばかりで遊んでいた。

こんなA子に対照的なのがO男である。自分自身のまわりのことが、ほとんど自分でできず、それでも入園当初はみんながそんなものだからたいして目立たずにすんでいたのだけれど、一ヵ月もたつとみんながじょうずになったり、しっかりしてきて、何とO男だけ。気がついて、全然じょうずになっていない。家でも自分のことは自分でやるようにしてくださいと家庭連絡をしても、なかなかうまくできなくて…と返ってきてしまい、これは、のん気に根気にやるしかない、くつのこと、制服のこと、かばんのこと、お手紙のこと、一つ一つ「O君」と声をかけてきた。

遊びはというと、いつもブロックにまず参加、しばらくすると、それをかたづけずに放り出して砂場へ、そしてくつもズボンもぬれてもかまわず水を使って遊んでい

る。もうかたづけましょうと言ってもなかなかやめれない。それだけ熱中しているのだと理解しなくてはならないのだけれど、毎日となるとかんにん袋の何とやら…
つい声を荒だててから我が身を反省！

同じクラスの一員で、同じようにかわいい我が子なだけに、私とA子、私とO男の関係はあきらかにA子に対する方が、ほめる言葉も多くにこにこしている



思うわけである。人はそれをえこひいきと言うかもしれない。でも教師も人間、わざとやっているのではなくて感情が出てしまうことだである、私は言いたい。そしてもし、O男が何でも自分できちんとできて、遊び方もじょうずになってきたら、どんなにかにこにこしてほめてあげられるのに…と心の中でつぶやいている。

(岐阜北幼稚園)